

特集「からだ」について

小川 國治

東亜大学 総合人間・文化学部 文化文明史研究室

E-mail:ogawa@toua-u.ac.jp

今年度は「からだ」について特集した。総合人間・文化学部総合人間・文化学科は、「〈人間とその文化〉の教育研究の拠点、人間科学の建設を唱って」⁽¹⁾ おり、情報教育をベースに人間学専攻、心理学専攻、スポーツ学、健康科学専攻、文化文明史専攻を設置している。人間科学の確立を目指すうえで、「身体の科学としての健康科学、スポーツ学が加わる」⁽²⁾ ことは、重要な意味を持っている。これらのことを考慮して、特集のテーマに「からだ」を選んだのである。

幸いにして、我が総合人間・文化学部には、各々の専攻分野に多彩な人材が集っており、優れた論考を寄せて頂いた。人間学の分野からは、17世紀のヨーロッパにおける主要な哲学者の身体・感覚論を視野に入れながら、「身体論の多様な可能性や理論的射程について議論を試み」ている（後掲井上龍介論文）。心理学の分野からは、心理学史で「意識」がどのように論じられてきたかを説明するとともに、「意識」に関するモデルを整理し、「意識」と「脳」の関係を論じている（後掲藤原裕弥論文）。スポーツ学・健康科学の分野からは、スポーツ学・健康科学における「からだ」を検討したうえで、動的な「からだ」である身体活動の特性や身体・身体活動とスポーツ学・健康科学について考察し、主として戦後の学校教育における「からだ」の教育について論じている（後掲岡村豊太郎論文）。文化文明史専攻の分野からは、「ニーチェの価値転換論のよびかけ、フッセル

の現象学に焦点を当て、身体を基底にすえた空間構成論の特質とその意義を明確にし、さらに芸術の現象学の構築を目指」して、新しい論点を提示して論じている（後掲金田晉論文）。

この特集が「からだ」について新しい展望を与えてくれることを願っている。

注

- (1) (2) 金田晉「総合人間・文化学部の目指すもの」『総合人間科学』（東亜大学総合人間・文化学部紀要）1巻1号 2001年。